

考えられるのである。キリスト教において蛇が悪であるのにそれを善として描くことになれば、書き手はキリスト教に批判的な立場にいることは明白である。ロレンスの有名な詩「蛇」は、キリスト教の価値観の逆転を述べているものであり、彼の思想の独創性が表われている作品として有名なのである。

詩「蛇」において、語り手「僕」は、イタリアの暑い夏の日に水飲み場で蛇に出会う。蛇を見た「僕」は怖くなって棒を投げつけてしまうのであるが、投げつけるに至るまでの心境を詳細に分析し、反省をしている。なぜ自分は蛇を怖がらなければならなかったのか、本当は蛇に話しかけたかったのに、蛇に対する愛着さえ覚えていたのに、と自分の行為を後悔する。怖がったのは今まで受けてきた教育のせいであり、教育というものの偏狭さを批判している（「(棒を投げつけたことは)なんと小心な、なんと下品で卑しい行為であったのか！/僕は自分を軽蔑し、のろわれた教育の声を軽蔑した」）。この後で「僕」は、穴の中へ逃げてしまった蛇にもう一度会いたいと思う。蛇は追われた王のように思われるのであったが、このとき「追放された王」という言葉は神との戦いに負けて地獄へ落とされた悪魔サタンを思い起こさせるのである。

また、第9作目の長編小説『羽鱗の蛇』(The Plumed Serpent 1926)においては、大蛇そのものが小説の題名として用いられている。この小説は、ロレンスがメキシコに滞在していたときに知った古代アステカ文明の神ケツァルコアトルについての神話を題材として小説を書いたものである。「羽鱗の」という形容詞が用いられていることから分かるように、この大蛇は羽毛が付いた蛇なのである。つまり「鳥」の性質を備えた蛇なのである。蛇と言えば大地の上を這い、地中に潜ると考えられているが、アステカ人たちは、蛇が空を飛ぶと考えたのであった。ゆえに男女という二元を基に様々な範疇の二元の均衡を唱えるロレンスは、ケツァルコアトルの信仰を唱えるインディアンの男性2人を主人公にして、精神性を唱える一道のキリスト教に反するものとして、精神性(天)と肉体性(大地)の二道を目指すケツァルコアトルを描いているのである。これが『羽鱗の蛇』とい

う題名の意味である。ロレンスにとっては「肉体」というものが抑圧されていたヴィクトリア朝の思想とキリスト教の横暴に対して、「肉体」を奪回することが非常に重要なことであった。しかし現代において「肉体」が重視されているかと言えば、ロレンスの思想とはまた大きく異なった方向に向かっていけると言える。肉体と精神の二元の関わり方は人間にとって永遠の課題であろう。

アメリカセミナー紹介 サウスイースト ミズーリ州立大学

法学部
北尾 泰幸

1. はじめに

愛知大学は国際交流センターが中心となり、夏休みにアメリカ・イギリス・ドイツ・中国に、春休みにフランス・中国・韓国・イギリス・オーストラリア(ただし2009年度はイギリス・オーストラリアの代わりにカナダ)に、約4週間語学研修を行う「海外短期語学セミナー」を実施している。セミナー参加者で、研修先で所定の単位を修めた者は、帰国後教授会の審議を経て、共通教育科目「海外セミナー」の単位(2単位)を得ることができる。私は国際交流センター委員として、今まで2008年度夏期の「アメリカセミナー」(研修先:サウスイーストミズーリ州立大学)、および2009年度春期の「カナダセミナー」(研修先:クイーンズ大学)の学生の引率を行った。2009年度夏期はインフルエンザの流行により海外短期語学セミナーが全て中止になったが、今年度は予定人数が集まれば、例年どおりセミナーが開かれる。そこで、今回は私の引率体験を踏まえたアメリカセミナーの紹介を行いたいと思う。

2. 研修先：サウスイーストミズーリ州立大学

研修先のサウスイーストミズーリ州立大学 (Southeast Missouri State University: SEMO) は1873年に創立された公立大学である。学部 (undergraduate) は College of Business, College of Education, College of Health and Human Services, College of Liberal Arts, School of Polytechnic Studies, College of Science and Mathematics, School of Visual and Performing Arts があり、200 を超す分野から専攻を選ぶことができる。アメリカセミナーでは International Education and Services にある Intensive English Program (集中英語プログラム) で学ぶことになる。



3. ケープジラード (Cape Girardeau)

研修先のサウスイーストミズーリ州立大学は、アメリカ合衆国中西部・ミズーリ州のケープジラード (Cape Girardeau) に位置している。ケープジラードはミシシッピ川沿いの港町である。市名のケープジラードは、1733年にミシシッピ川を見渡すことができる岬 (cape) に (現在は Cape Rock という公園になっている)、フランス人兵士ジャン・バプティスト・ジラルド (Jean Baptiste Girardot) が貿易拠点を置いたことにちなんで名づけられた。のどかな田舎町であり、人口は36,000人ほどである。

私はカリフォルニア州・ロサンゼルスに留学した経験があるが、ロサンゼルスと比べると、はるかに治安はよい町である。引率期間中サウスイーストミズーリ州立大学のインストラクターやホストファミリーなどケープジラードに住む人々に会っている話をしたが、皆、口を揃えて「ロサン

ゼルスのような都会ではあまり住みたくない。」と言っていた。小さなケープジラードの町を愛している、おらかな人が多かった。

4. 授業の内容

リーディング・スピーキング・リスニング・ライティングの英語四技能のレベルアップを図るべく授業が行われるが、各週の週末にフィールドワークが設定されていることから、フィールドワークの場所に関する題材をもとにして授業が行われる。2008年度夏期のアメリカセミナーでは、第1週目はミシシッピ川の氾濫を防ぐために建てられた洪水壁 (floodwall) でもあるが、現在はミズーリ州にまつわる有名人の絵と、ケープジラードの歴史的場面の絵が描かれている “Missouri Wall of Fame” にフィールドワークに行くことになっていたの、まずはその知識を得るためにケープジラードの歴史について学んだ (表紙写真参照)。インストラクターが独自に作成したケープジラードの歴史に関する教材を読み、その内容についてインストラクターが学生に尋ねていく。知らない町の歴史であることから読み解くのがなかなか手ごわい教材であるが、インストラクターが詳しい説明をしてくれるとともに、ケープジラードの歴史や町について、教材に載っていないことにも話題を広げて紹介してくれるので、学生は「早くフィールドワークに行って、ケープジラードの歴史を体感したい。」という気にさせられる。また、この課題に加えて、*The Mississippi* (World Almanac Library 発行、現在は絶版になっている) という本をグループで読み解き、内容について発表 (presentation) することが求められる。当然英語で発表するわけで、ただ単に文章を声に出して読むだけではなく、内容を分かりやすくまとめる技術が求められる。なかなか難しい課題だが、本の内容が面白いため、楽しんで取り組むことができる。

このように、教材を通じて、フィールドワークに行く場所の歴史や地理について学んでいき、英語の読解力・聴解力・作文力・会話力を上げていくことを目標としている。課題は非常に面白く、私は教室の後ろで学生が取り組む姿を見ていたが、私も中に入ってインストラクターと意見交換をしたい気にさせられた。

5. ホームステイ

セミナー期間中はケープジラード、もしくは隣町のジャクソン (Jackson) の家庭にホームステイする。ホームステイ先は長年愛知大学の学生を受け入れてきた家庭が多い。引率期間中、2008年9月から愛知大学がサウスイーストミズーリ州立大学との間で始めることになっていた「1セメスター留学」のホストファミリーに対する説明会があり、私もそこに出席してホストファミリーと意見交換をしたが、ホストファミリーは皆、愛知大学の学生を非常に気に入ってくれていた。愛知大学の学生をホストするようになって、日本文化に対する興味が増してきたようで、私に日本の文化や生活習慣など、矢継ぎ早に質問をしてくださった。このように喜んで学生を迎え入れてくれる、快活で優しいホストファミリーを目の当たりにして、このようなホストファミリーのもとで過ごせる学生をうらやましく思った次第である。

6. フィールドワーク：セントルイス

上述のように、4週間の研修期間中いくつかの場所にフィールドワークに出かけるが、その一つが「セントルイス」(Saint Louis) である。セントルイスは、大学のあるケープジラードに行く前に、飛行機で降り立ったところである。ちなみにケープジラードはセントルイスから車で約3時間のところに位置している。

セントルイスは、現在オリックス・バッファローズに復帰して活躍している田口壮選手 (背番号33) が所属していた大リーグ「セントルイス・カージナルズ」(St. Louis Cardinals) の本拠地として知られている、人口約35万人の商工業都市である。観光名所としては、セントルイス市のシンボルとなっている写真の「ゲートウェイ・アーチ」(Gateway Arch) がある。1803年にアメリカ合衆国第3代大統領トーマス・ジェファーソンが、フランスよりミシシッピ川以西のルイジアナを獲得する「ルイジアナ購入」を行ったことにより、それまで合衆国の西端の町であったセントルイスは「西部への入口の町」となった。未知の西部開拓へ向かった人たちの夢と野心をたたえ、この「ゲートウェイ・アーチ」が1965年に作られた。アーチは192mあり、アーチのてっぺんまでトラムで行

くことができる。アーチの地下には西部開拓博物館 (The Museum of Westward Expansion) があり、西部開拓の歴史に関する資料が展示されている。学生は西部開拓の歴史を学んだ上でセントルイスに行き、トラムに乗ってゲートウェイ・アーチの頂上からセントルイスの町を見下ろし、開拓者の野心に思いを馳せていた。



7. エクスカーション：シカゴ

研修で磨いた語学力を活かすべく、エクスカーション (小旅行) が企画されている。2008年度夏期アメリカセミナーはシカゴ (Chicago) にエクスカーションを行った。シカゴはイリノイ州に位置する大都市で、「Windy City」(風の街) という愛称で呼ばれている。

私は研修前半の引率だったため、エクスカーションには参加しておらず細かい点について書き記すことができないのが残念だが、セミナー参加学生によると、ケープジラードとは違うアメリカの魅力を感じたとのことである。また、自分の使った英語が通じる感動も味わうことができたそうである。

8. バンケットでの発表

4週間の語学研修の総決算として、バンケット (banquet) が開かれる。これはセミナー参加学生はもちろんのこと、セミナーで英語の授業を受けたインストラクターと、ホストファミリーが参加する晩餐会である。

ここでは、学生がインストラクターとホストファミリーへの感謝の意を表すべく、プレゼンテーションを行うことが求められる。プレゼンテーション

の内容は学生のオリジナルであることが求められるため、学生は意見交換をし、皆で一つのものを作り上げる。このパンケットも、前半引率者であった私は参加していないが、参加学生によると、「日本の四季」について、劇仕立てで発表したとのことである。インストラクターのブランドン (Mr. Brandon Scheldt) からもらったメールによると、内容・チームワークともに実に良いプレゼンテーションだったとのことである。

9. まとめ

このように、アメリカセミナーでは、ケープジラードの町に行くからこそ学べる内容が提供されている。セミナーの参加費は決して安くはないので学生の皆さんに「ぜひとも行くべきである。」とはもちろん言うことはできないが、長期留学を考えている人はその前段階として本セミナーを活用するのもよいだろうし、短期留学を考えている人は、語学学校ではなく大学で学ぶことができる本セミナーに参加するのは有益であると思う。もともと本稿はこの夏に海外短期語学セミナーに行こうと思っている学生向けに書くつもりだったが、この原稿が印刷される7月には夏期短期語学セミナーの説明会が終わってしまっている。しかし、春にも短期語学セミナーが行われる予定であるし、またサウスイーストミズーリ州立大学については約3ヶ月間留学する「1セメスター留学」があり、こちらは9月に説明会が開かれるので、興味がある学生はぜひ説明会に出席してもらいたい。「説明会まで待てないので、すぐ詳しいことを知りたい。」という学生諸君は、名古屋校舎・豊橋校舎の国際交流センターに訪ねてもらえば、短期語学セミナーについていつでも詳しく説明していただける。また私の体験でよければ、研究室に来ていただければお話をさせていただくので、いつでも研究室に訪ねていただきたい。

また、名古屋語学教育研究室のホームページにある「外国語ハンドブック」に、学生による2008年度夏期アメリカセミナー、および2008年度春期イギリスセミナーの体験記が載っているので、ぜひ読んでいただきたい。また2008年度夏期アメリカセミナーで愛知大学の学生を指導してくれたブランドンが2008年度アメリカセミナーの様子を

ビデオクリップにしてくれており、サウスイーストミズーリ州立大学・集中英語プログラムのホームページにて見るできるので、ぜひこちらもご覧いただきたい。

URL

- ・名古屋語学教育研究室「外国語ハンドブック」
<http://leo.aichi-u.ac.jp/~goken/handbook.html>
- ・2008年度アメリカセミナー ビデオクリップ
<http://www.semo.edu/iep/gallery.htm>
- ・サウスイーストミズーリ州立大学
<http://www.semo.edu>
- ・サウスイーストミズーリ州立大学
Intensive English Program
<http://www.semo.edu/iep/index.htm>